

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【 愛知県立豊田工業高等学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	愛知県立豊田工業高等学校定時制課程 第4学年 男子11名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>◇2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。</p> <p>◇スポーツを楽しむ心を育み、フェアプレーやチームワークの精神の育成を図る。</p> <p>◇パラリンピック競技を経験することで、障がい者スポーツへの理解を深める。</p>
5 取組内容	<p>《事前学習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IPC（国際パラリンピック委員会）教材「I'm possible」の <ul style="list-style-type: none"> ①リオ2016パラリンピックダイジェスト ②パラリンピックってなんだろう ③パラリンピックスポーツについてまなぼう ④東京2020パラリンピックを楽しもう ⑤教師用ハンドブック <p>等を用いて、パラリンピックの知識を深める。</p>



《実践》

・ボッチャの実践（日本福祉大学安藤佳代子助教授）

- 1) 競技説明
- 2) レクリエーションボッチャの実践
- 3) 競技ボッチャの実践



《事後学習》


- ・筑波大学からのアンケートを実施
- ・オリンピック・パラリンピック教育の映像を使った事前指導と、ボッチャ体験を通しての感想アンケートを実施

6 主な成果

・レクリエーションでボッチャという競技の楽しさを体験し、さらに競技ボッチャをすることで、ボッチャの難しさや作戦の大切さ、チームワークなどを学ぶことができた。

・ボッチャを「する」だけでなく、生徒に審判をさせたりコートを作成させることによって、スポーツを「支える」体験をさせることができた。



	<p>《実施後の生徒アンケートより》</p> <p>◇事前指導でパラリンピックの水泳のスタートが、タオルを口でくわえてスタートするなど、障がいに応じてそれぞれ違うスタイルがあることを知って驚いた。</p> <p>◇ボッチャ体験をする前は、ボールを転がすだけの競技でおもしろいのかなと思っていたけど、実際にやってみたら結構おもしろかったです。</p> <p>◇ボッチャは健常者でもすごく楽しめていいと思った。</p> <p>◇ボッチャは技術も大切だが、戦略や考えがとても大切で大変で、それがおもしろかったです。</p> <p>◇自分は今回の体験を通して、オリンピックやパラリンピックに少し興味をもったので、ボッチャ以外にも他のスポーツを見たり体験したいと思います。</p> <p>◇パラリンピック教育を受けて、色々な障がいがあってもやればできるという勇気をもらった。</p>
	
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導では、映像を使って興味関心をもたせ、発問をさせることによってパラリンピックについて考えさせる場面をつくった。 ・本校の生徒の特色から講義だけでは難しいと考え、体験活動中心の内容にした。 ・運動能力の低い生徒でも比較的簡単に取り組めるボッチャを選択した。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒はパラリンピックスポーツと言えば、車いすバスケなどの比較的運動量のあるスポーツを想像するため、地味に見えるボッチャに興味関心をもたせるのに苦労した。
9来年度以降 の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論の中で、オリンピック・パラリンピックについてより詳しく学習させ、知識を深めていきたい。 ・今後の中期的な目標としては、東京オリンピック・パラリンピック開催時にもこのモチベーションを維持し、さらに長期的な目標としては、生徒がこの学習・体験を通じて生涯においてスポーツに関わり、豊かなスポーツライフを送っていけるような支援をしていくことである。